

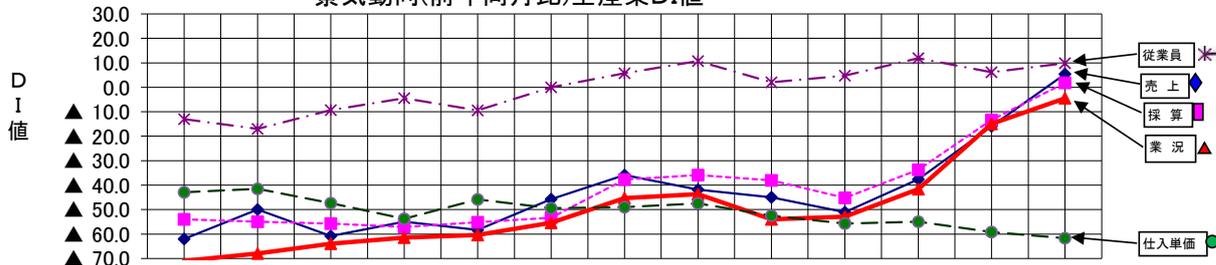
早期景気観測調査 新潟商工会議所管内 5月分

【5月の概要】 「売上」「業況」DIは大幅に改善するも、先行き見通しは悪化 ワクチン接種の早期進捗に期待

前年同月比で調査している業況判断DIは、昨年の（初回）緊急事態宣言時の反動もあり、「売上」で21.3ポイントの大幅改善となり、「採算」「業況」でも10ポイント以上改善。「売上」「業況」では、マイナスからプラスに転じた（「売上」は2018年11月以来30か月ぶり、「業況」は2017年8月以来45か月ぶり）。「仕入単価」は若干悪化し、「従業員」はやや過剰局面に入った。

先行き見通しについては、全ての項目で悪化。寄せられたコメントでは、緊急事態宣言の影響をはじめ、材料価格や燃料の値上がり、工期の遅れなどで、引き続き先行き不透明とする声が多く、ワクチン接種の早期進捗が強く望まれる。

景気動向(前年同月比)全産業DI値



【全産業平均DI】 ※DI(景況判断指数)=(良い割合)-(悪い割合)

	2020年 5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	2021年 5月
◆ 売上	▲ 62.0	▲ 50.0	▲ 60.8	▲ 55.0	▲ 58.3	▲ 45.7	▲ 35.9	▲ 41.8	▲ 45.0	▲ 51.0	▲ 37.6	▲ 15.9	5.4
■ 採算	▲ 54.0	▲ 55.0	▲ 55.7	▲ 57.1	▲ 55.2	▲ 53.3	▲ 37.7	▲ 35.9	▲ 38.0	▲ 45.2	▲ 33.7	▲ 13.3	1.8
▲ 業況	▲ 71.0	▲ 68.0	▲ 63.9	▲ 61.5	▲ 60.4	▲ 55.4	▲ 45.3	▲ 43.7	▲ 54.0	▲ 52.9	▲ 41.6	▲ 15.0	4.5
● 仕入単価	▲ 42.9	▲ 41.5	▲ 47.4	▲ 53.8	▲ 45.8	▲ 49.4	▲ 49.0	▲ 47.5	▲ 52.5	▲ 55.7	▲ 54.9	▲ 59.2	61.7
* 従業員	▲ 13.0	▲ 17.0	▲ 9.3	▲ 4.4	▲ 9.4	0.0	5.7	10.7	2.0	4.8	11.9	6.2	9.9

- ・マイナス幅が減少したDI値：業況10.5ポイント
- ・マイナスからプラスに転じたDI値：売上21.3ポイント、採算15.1ポイント
- ・プラス幅が増加したDI値：従業員3.7ポイント
- ・マイナス幅が増加したDI値：仕入単価2.5ポイント

向こう3か月間の先行き見通し

	売上(受注・出荷)	採算	業況	仕入単価	従業員
3月	▲ 18.8	▲ 25.7	▲ 24.8	▲ 17.8	2.0
4月	▲ 5.3	▲ 8.0	▲ 7.1	▲ 26.6	5.3
5月	▲ 5.4	▲ 14.4	▲ 16.2	▲ 30.6	8.1

- ・見通しが悪化したDI値：売上0.1ポイント、採算6.4ポイント、業況9.1ポイント、仕入単価4.0ポイント
- ・上昇したDI値（過剰感の上昇）：従業員2.8ポイント

【業界から寄せられた主なコメント】

建設業	建設資材	建材輸入に遅れが出始めており、住宅メーカーの着工遅れが懸念される。
	電機	得意先の業績悪化により、受注が減少している。1日も早く正常に戻ることを期待している。
製造業	板金・溶接	鉄やステンレス等の材料値上がりが続いており、引き続き厳しい状況。
	製菓	スーパーや生協、通信販売では巣ごもり効果で好調な反面、外食や土産関係で打撃を受けた。
卸売業	水産	緊急事態宣言発出の影響が、少なからず出ている。
	青果	外食産業の時短営業により業務需要の減少が続いている一方、巣ごもり消費は安定している。
小売業	衣料品	昨年と比べれば多少良くなっているが、売上は通常の2～3割減。
サービス業	広告	ワクチン接種が進まず、変異株拡大も懸念され、明るい材料が無い。現状維持すら難しい。
	タクシー	イベントや競馬開催があり、何とか凌ぐも、来県者や深夜利用者が少なく引き続き厳しい。
	運輸	緊急事態宣言延長により、新年度の取扱量増加に対する期待が薄くなった。軽油価格も高騰しており今後の動向が心配。